

事業報告書

1 支援団体名	第14回九州「川」のワークショップ川内川実行委員会
2 事業名称	九州の川を語いもんそ in 川内川 ～第14回九州「川」のワークショップ～
3 実施日時	平成26年11月29～30日
4 実施場所	薩摩川内市国際交流センター（鹿児島県薩摩川内市天辰町）
5 事業目的、内容及びその効果	<p>(事業実施状況・内容) *できるだけ詳細に</p> <p>■ワークショップ1日目(11/29 午後)</p> <p>13:00 オープニング(薩摩川内おどり太鼓)</p> <p>13:15 開会式 開会挨拶 大会副会長 野見山ミチ子、薩摩川内副市長</p> <p>13:30 ステージ発表(51団体 発表団体数過去最多)</p> <p>19:00 全体交流会(199名)</p> <p>■ワークショップ2日目(11/30 午前)</p> <p>8:50 オリエンテーション</p> <p>9:00 発表団体アピールタイム (ポスターやPC等でのプレゼンタイム)</p> <p>10:30 全体討論会(九州の水防災学習について)</p> <p>11:30 閉会式 ・表彰式 ・講評 九州地方整備局 河川調査官 宮本健也 ・次回開催地への引き継ぎ ・閉会挨拶 大会実行委員長 中村周二</p> <p>14:00 鶴田ダム再開発インフラツアー 参加者28名(午前 27名)</p>
	<p>(事業実施効果)</p> <p>・発表団体数が過去最高の51団体、総参加者数も500名弱となり、最高の盛り上がりとなった。</p> <p>・川内川、遠賀川、武雄、本明川等九州の水防災教育の事例発表や、全体討論会で川内川のモデル校盈進小学校の校長や鹿児島大学教育学部の黒光先生に実施事情や鹿児島県における防災教育の状況等を紹介いただいたことにより、他河川の方々に導入意欲があらわれ、川内川の事例によってつながることができた。また、国や県の河川事業に参画し、次世代の人財育成を図っている工業高校の事例等が紹介され、流域での官学民連携した人材育成推進の機運が高まった。</p> <p>・本事業を実施したことにより、流域の主だったメンバーや大学生が多数スタッフ参加し、次につながる体制で実施できた。</p>
6 参加内訳	総人数(2日間延べ 1日目312名 2日目183名) 495名
	(1) 主催者参加(2日間延べ) 95名
	(2) 日本人参加((1)を除く) 400名
	(3) 外国人参加((1)を除く) 0名

7 今後の方針

3月6日に長崎県諫早市で開催された引継ぎ会（事務局会議）、第1回諫早実行委員会において、開催日11月14日（土）15日（日）とし、「伝える・つなぐ」をテーマに、川の楽しさや怖さを伝える事例紹介をおこなうと打ち出され、持続可能な九州の活動の発展に寄与していく予定。

また、川内川においても、水防災教育をさつま町以外にも拡大し、また、このプログラムを県下の小中学校で実施される防災プログラムとなるよう官学民連携し進めていく予定である。

11/29 オープニング



11/29 ステージ発表



11/30 表彰式



11/29 開会式



11/30 アピールタイム



11/30 インフラツアー

